



心ポカポカのいいお話

先日、校長室のドアをノックする音が聞こえてきました。「どうぞ、入ってください。」と言うと、4年生のお子さんが入ってきて、今困っていることを話してくれました。実は、近所の公園でのマナーが悪い子供たちが増え、特にお菓子を食べたら、その袋などそのまま公園に捨てていく人がいるということでした。そのお子さんは、それらのごみが気になったらしく、ごみ袋を持参し、ごみを拾ってくれたそうです。すると、そこに居合わせた6年生の子供たちもごみ拾いを手伝い、ごみ袋一杯のごみになったそうです。学校でももう一度地域のごみや公共の施設を使うときのマナーについて考えてもらおうと思っています。これを機に、ご家庭でも公園や公共施設でのマナーについて話題に挙げていただければありがたいです。



実際に集められたごみ

♡ひこうきぐも✧ vol.5

私の旅の目的の一つに、各国の芸術や文化に触れるということもありました。アメリカやヨーロッパの美術館や、オペラ、ミュージカルやコンサートを観たり聞いたり(食べたり)するというものです。やはりこういう方面では、当時の日本と比べると成熟度の違いを感じました。例えば音楽でも、ジャズからクラシックまで幅広い分野で、幅広いファン層があります。この幅広いファン層が生まれる要因の一つとして、日本と比べるとチケットがとても安く手に入ることも挙げられるのではないのでしょうか。

もちろん向こうでも、一番よい席になるとそれなりの値段はしますが、値段はピンからキリまであります。学生向けのチケットは、安くチケットが手に入り、芸術系を学ぶ学生にとっては、とても有難かったと思います。また、観客の観る態度、聴く態度などとても素晴らしく、学ぶべき点が多々ありました。子供たちに目を向けると、小さい頃から社会性を身に付けており、公の場所で、大声を出したり、泣いたり、走り回ったりする姿は殆ど見かけませんでした。

また美術館は日曜日にもなると、子供たちが自由に絵を楽しんでいます。それというのも休みの日は、子供たちが無料で入れる所が多いのです。社会の受け皿がしっかりしているのです。子供たちもただ観るのではなく、絵に関するうんちく(フランス語だったので、内容はわかりません)をじっくりと語り合っているのです。

ダヴィンチが描いたモナリザの絵の前で、子どもたちが絵について語り合っていると、日本人観光客団体がやって来て、Vサインをしながら写真を撮るバシャバシャ撮っていき、周囲の冷たい視線を浴びていました。

ただモナリザだけは、いつも通り微笑んでいましたが……。

※「ひこうきぐも」は、あくまでも荒木が旅をした当時、約30年前の街の様子です。現在とは状況に違いがあることをご了承ください。